



# 水と 注ぎ直し

主な治療方法は手術になる。  
「部分麻酔で頭蓋骨に穴を開け（穿頭）、硬膜の下にたまっている血液を細いチューブで抜きます。血液を抜いた後に血腫がたまっていた部分（血腫腔）を生理食塩水や人工髄液で洗浄することもあります」

手術以外の方法では薬物治療（止血剤や漢方薬）があるが、大きい血腫がある人には効果が乏しいという。また、一度、上記の手術を行っても、10%程度の人は再発する。その際は再度手術の選択がある。それ以外では「最近では硬膜の血管をカテ

手術で詰めて出血を止めるような処置も保険適用外で行われ始めています」（原医師）。

黒岩知事の場合、入院する数日前から頭痛や足のもつれなどの症状があった。4日に血腫を除去する手術が無事終了した

「主治医からは「もう1日、

頭部のCT（コンピュータ断層撮影）検査、またはMRI（磁気共鳴画像法）検査を受ければ、発症したかどうか診断がつかます」と原医師はアドバイスした。（医療ジャーナリスト・大家俊夫）

▼近著 「寿命を縮めないがん検診」の選び方 肺がん・乳がん・食道がんの発見が遅れないために」（講談社）。

## ①連載の「イベルメクチン 世界の臨床医の証言を読む」

▽奥野修司（おくの・しゅうじ）「ナッコ 沖繩密貿易の女王」で大宅壮一ノンフィクション賞と講談社ノンフィクション賞を受賞。最新刊に「認知症は病気ではない」（文春新書）。

「つい数年前、新型コロナウイルスが世界中を席巻したことも、今やうたかたのようだが、私自身が今も気になっているのは、大村智博士らが発見しているイベルメクチン・医学賞を受賞したイベルメクチンのことである。」

「新型コロナウイルスの感染者が始めた頃だった。拙著『副作用のない抗がん剤』の誕生」（文芸春秋）で紹介した故・前田浩熊本大名誉教授から、イベルメクチンは抗寄生虫薬で知られているが、それはごく一部で、強い抗ウイルス作用もあるから特効薬になるかもしれない」と言われた。

実際、2020年4月、オーストラリアの大学はイベルメクチンが「新型コロナウイルスの複製を阻害す



「部分麻酔で頭蓋骨に穴を開け（穿頭）、硬膜の下にたまっている血液を細いチューブで抜きます。血液を抜いた後に血腫がたまっていた部分（血腫腔）を生理食塩水や人工髄液で洗浄することもあります」

手術以外の方法では薬物治療（止血剤や漢方薬）があるが、大きい血腫がある人には効果が乏しいという。また、一度、上記の手術を行っても、10%程度の人は再発する。その際は再度手術の選択がある。それ以外では「最近では硬膜の血管をカテ

「イベルメクチンで患者の命を救っている各国の医師たちに『何かメッセージを』と呼びかけた」ところ、世界中から証言が寄せられたという。むろん英文だから、日本語に翻訳してまとめたのが本書である。

イベルメクチンには新型コロナウイルスに

「馬の駆虫薬」などと蔑んだり、医師がSNSでイベルメクチンを勧められたイベルメクチンはなぜ消えたのか。本書から引用しながらお伝えしたい。ちなみに、本書は「反ワクチン」のために書かれたものではない。もちろん大村博士も「反ワクチン」ではないことをお伝えしておく。

# なぜ新型コロナウイルス禍で使われなかったのか

「イベルメクチン」は抗寄生虫薬で知られているが、それはごく一部で、強い抗ウイルス作用もあるから特効薬になるかもしれない」と言われた。

実際、2020年4月、オーストラリアの大学はイベルメクチンが「新型コロナウイルスの複製を阻害す

「部分麻酔で頭蓋骨に穴を開け（穿頭）、硬膜の下にたまっている血液を細いチューブで抜きます。血液を抜いた後に血腫がたまっていた部分（血腫腔）を生理食塩水や人工髄液で洗浄することもあります」

手術以外の方法では薬物治療（止血剤や漢方薬）があるが、大きい血腫がある人には効果が乏しいという。また、一度、上記の手術を行っても、10%程度の人は再発する。その際は再度手術の選択がある。それ以外では「最近では硬膜の血管をカテ

手術で詰めて出血を止めるような処置も保険適用外で行われ始めています」（原医師）。

黒岩知事の場合、入院する数日前から頭痛や足のもつれなどの症状があった。4日に血腫を除去する手術が無事終了した

「主治医からは「もう1日、

頭部のCT（コンピュータ断層撮影）検査、またはMRI（磁気共鳴画像法）検査を受ければ、発症したかどうか診断がつかます」と原医師はアドバイスした。（医療ジャーナリスト・大家俊夫）

▼近著 「寿命を縮めないがん検診」の選び方 肺がん・乳がん・食道がんの発見が遅れないために」（講談社）。